

透湿弾性機能形水系2液高耐候性超低汚染  
セラミックハイブリッドシリコン樹脂塗料

**ダイヤセラコートアクア**

透湿弾性機能形水系2液高耐候性超低汚染  
セラミックハイブリッドシリコン樹脂塗料

F☆☆☆☆

# ダイヤセラコートアクア

透 湿 性

柔 軟 性

高 耐 候 性

超 低 汚 染 性

防カビ・防藻性

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは  
日本シーカ株式会社に統合され、新たにシーカ・ジャパン株式会社  
としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト  
<https://www.dia-dyflex.jp/>  
にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

(24.7月現在) 24.07.500 84

シーカ・ジャパン株式会社

東京都港区元赤坂1-2-7 赤坂Kタワー7F TEL. 03-6434-7291

BUILDING TRUST



BUILDING TRUST



DIACERACOAT AQUA

透湿弾性機能形水系2液高耐候性超低汚染  
セラミックハイブリッドシリコン樹脂塗料

# ダイヤセラコートアクア

透 湿 性

柔 軟 性

高 耐 候 性

超 低 汚 染 性

防カビ・防藻性

水系塗料は新たなステージへ。

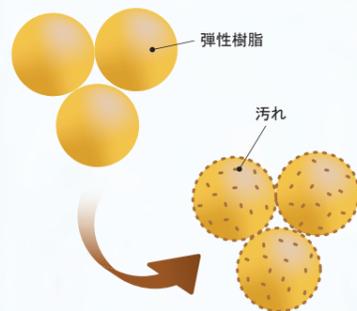
ダイヤセラコートアクアは  
従来の製品では成し得なかった様々な機能をあわせ持つ  
無機有機ハイブリッドシリコン樹脂塗料です。

弾 性

超 低 汚 染 性

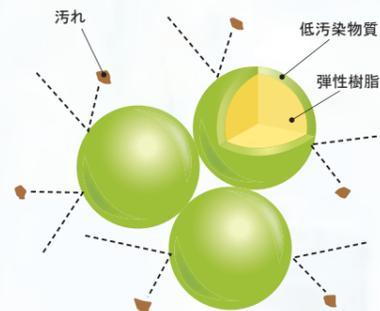
従来は『弾性』と『低汚染性』は相反する性能でしたが  
**コアシェル構造**により機能兼備を実現しました。

従来の弾性樹脂



柔らかい弾性樹脂は  
汚れが付着しやすい

コアシェル構造

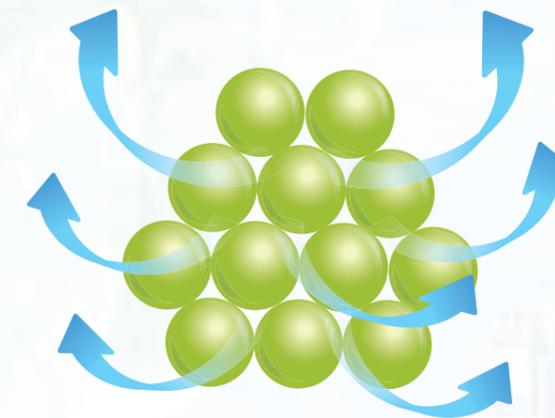


柔らかい弾性樹脂の表面を低汚染  
物質でコーティングすることにより  
汚れが付着しにくい

透湿性

高耐候性

シリコン架橋が多い高分子構造の樹脂を採用したことで  
『透湿性』『耐候性』が向上しました。



水蒸気を通し、水を通しません

DIACERACQUA

様々な特長により塗替え時の美しさを永く保ちます。

## 透湿性

各種上塗材の中では最高クラスの透湿性を発揮します。

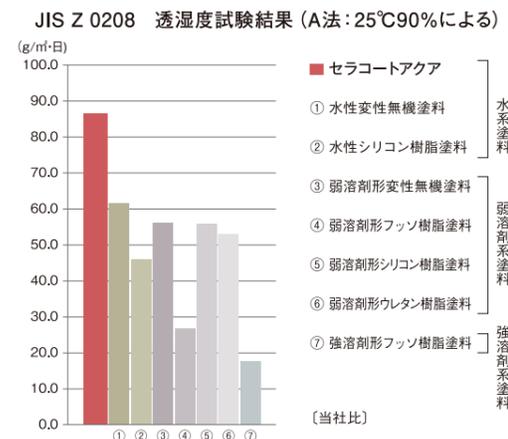
透湿性の高い塗料は、雨などの水滴は通さずに、水蒸気を逃がす性質を持ちます。

よって熱膨れの原因となる水分を効率的に排出することができます。

※水 滴 … 直径100~300 $\mu$ m  
水蒸気 … 直径0.0004 $\mu$ m



窯業系サイディングやALCパネルなどの蓄熱性の高い部材を用いた建物の塗替えに最適です。



## 高耐候性

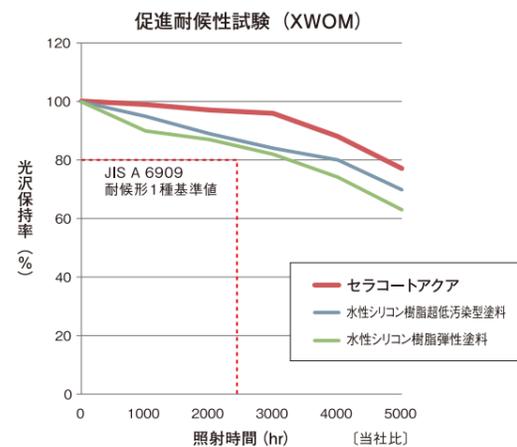
紫外線や熱などの劣化要因に強いシロキサン結合を持つ塗膜が塗装直後の美しい仕上がりを永く守ります。

水性シリコン樹脂塗料の中で最高の耐候性。

蓄熱性の高い部材は塗料の劣化を早めますので特に耐候性の高い塗料を推奨します。

耐候性の高い塗料は、塗料が持つ本来の様々な機能の低下を抑制します。

窯業系サイディングやALCパネルなどの蓄熱性の高い部材を用いた建物の塗替えに最適です。



## 旧塗膜適性

各種下塗材や下地調整材への適性により、幅広い下地への対応が可能です。

さらに『下地調整材』との組み合わせで新たな機能を追加できます。

部材: 窯業系サイディング の塗替えにおすすめの工法

カチオン形水系エポキシシーラー  
『ダイヤワイドシーラー』との組み合わせ

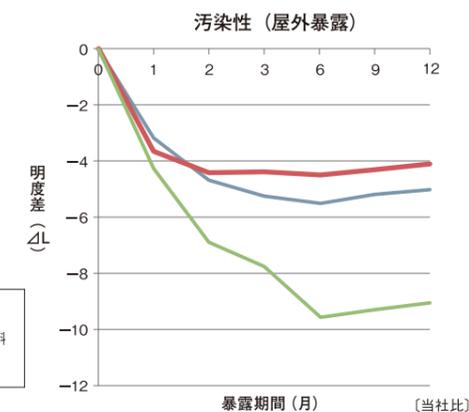
追加機能 サイディング付着性

## 超低汚染性

最新のセラミックハイブリッド技術により親水性の高い塗膜を形成し、超低汚染性を発揮します。

セラミックハイブリッドにより、親水性の向上 (雨水で汚れが落ちやすくなる) と帯電性の低下 (静電気を帯びにくくすることで埃を引き寄せにくくする) を実現しました。

弾性塗料でありながら従来の超低汚染型水性シリコン樹脂塗料よりもさらに低汚染性をレベルアップしました。



## 柔軟性

柔軟性に優れた塗膜によりシーリング上に施工した場合のひび割れリスクを軽減します。

柔らかいシーリングの上に塗られた塗膜は下地の動きによりひび割れが発生しやすい状況にあります。

ダイヤセラコートアクアはダイヤスーパーダンセイ (JIS A 6021 建築用塗膜防水材) の上塗材として適用できる柔軟性に優れた塗膜が特長です。この特長によりシーリング上に施工した場合、塗膜のひび割れを軽減することができます。

目地シーリングの多い窯業系サイディングやALCパネルなどを用いた建物の塗替えに最適です。



弊社シーリング材による試験



シーリング上に塗られた塗膜のひび割れ

## 防カビ・防藻性

防カビ・防藻性を有し、カビや藻の発生を抑制します。

部材: ALC の塗替えにおすすめの工法

無機透湿微弾性フィラー  
『ダイヤセラ・トーツプラス』との組み合わせ

促進機能 透湿性

部材: RC・木造 の塗替えにおすすめの工法

防水形弾性フィラー  
『ダイヤアグレスフィラーダンセイ』との組み合わせ

追加機能 防水性

## 標準仕様

工程	製品名	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工器具	
					工程内	工程間		
1	素地調整	〔新築〕各下地に対して、標準仕様書に基づいた処置を行って下さい。 〔改修〕各改修工事仕様に基づいて、劣化部分のケレン、補修、汚れの除去などを行って下さい。						
2	下塗材	ダイヤワイドシーラー 無希釈	15kg	0.1~0.15kg/㎡ 100~150㎡/缶	1	—	2時間以上	中毛ローラー 刷毛、エアレス
3	上塗材	ダイヤセラコートアクア 清水 A液 B液 刷毛・ローラー エアレス	14kg 1kg 0.5~1.0 <sup>リットル</sup> 0.8~1.6 <sup>リットル</sup>	0.2~0.3kg/㎡ 50~75㎡/セット	2	2時間以上	—	中毛ローラー 刷毛、エアレス

※乾燥時間は、標準状態（23℃、50%RH）での時間を示します。  
※シリコン、フッ素樹脂塗料、無機塗料、光触媒などの下地は別途お問い合わせ下さい。  
※既存塗膜の形状や素材、塗装方法、環境などによって所要量が増減することがあります。

## 窯業系サイディング仕様

工程	製品名	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工器具	
					工程内	工程間		
1	素地調整	各改修工事仕様に基づいて、劣化部分のケレン、補修、汚れの除去などを行って下さい。						
2	下塗材	ダイヤワイドシーラー 無希釈	15kg	0.1~0.15kg/㎡ 100~150㎡/缶	1	—	2時間以上	中毛ローラー 刷毛、エアレス
3	上塗材	ダイヤセラコートアクア 清水 A液 B液 刷毛・ローラー エアレス	14kg 1kg 0.5~1.0 <sup>リットル</sup> 0.8~1.6 <sup>リットル</sup>	0.25~0.35kg/㎡ 43~60㎡/セット	2	2時間以上	—	中毛ローラー 刷毛、エアレス

※乾燥時間は、標準状態（23℃、50%RH）での時間を示します。  
※シリコン、フッ素樹脂塗料、無機塗料、光触媒などの下地は別途お問い合わせ下さい。  
※既存塗膜の形状や素材、塗装方法、環境などによって所要量が増減することがあります。

## 無機透湿微弾性フィラー仕様

工程	製品名	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工器具	
					工程内	工程間		
1	素地調整	各改修工事仕様に基づいて、劣化部分のケレン、補修、汚れの除去などを行って下さい。						
2	下塗材	ダイヤセラ・トーチツプラス 清水	16kg 1.6~2.4kg	0.3~0.5kg/㎡ 32~53㎡/缶	1	—	5時間以上	中毛ローラー
	下塗材	ダイヤセラ・トーチツプラス 清水	16kg 0.5~0.8kg	0.6~0.7kg/㎡ 22~26㎡/缶	1	—	16時間以上	多孔質ローラー
3	上塗材	ダイヤセラコートアクア 清水 A液 B液 刷毛・ローラー エアレス	14kg 1kg 0.5~1.0 <sup>リットル</sup> 0.8~1.6 <sup>リットル</sup>	0.25~0.35kg/㎡ 43~60㎡/セット	2	2時間以上	—	中毛ローラー 刷毛、エアレス

※乾燥時間は、標準状態（23℃、50%RH）での時間を示します。  
※既存塗膜の形状や素材、塗装方法、環境などによって所要量が増減することがあります。  
※シリコン、フッ素樹脂塗料、無機塗料、光触媒などの下地は別途お問い合わせ下さい。  
※既存塗膜の劣化が著しい場合やセメント系下地の場合は、ダイヤガンシーラーマイルドまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。

## 可とう形改修用仕様 (JIS A 6909)

工程	製品名	調合割合	所要量	塗回数	間隔時間		施工器具	
					工程内	工程間		
1	素地調整	各改修工事仕様に基づいて、劣化部分のケレン、補修、汚れの除去などを行って下さい。						
2	下塗材	ダイヤアクリスフィラーダンセイ 清水	16kg 0.8~1.6kg	0.3~0.5kg/㎡ 32~53㎡/缶	1	—	16時間以上	中毛ローラー
	下塗材	ダイヤアクリスフィラーダンセイ 清水	16kg 0.6~1.0kg	0.8~1.0kg/㎡ 16~20㎡/缶	1	—	16時間以上	多孔質ローラー
3	上塗材	ダイヤセラコートアクア 清水 A液 B液 刷毛・ローラー エアレス	14kg 1kg 0.5~1.0 <sup>リットル</sup> 0.8~1.6 <sup>リットル</sup>	0.25~0.35kg/㎡ 43~60㎡/セット	2	2時間以上	—	中毛ローラー 刷毛、エアレス

※乾燥時間は、標準状態（23℃、50%RH）での時間を示します。  
※既存塗膜の形状や素材、塗装方法、環境などによって所要量が増減することがあります。  
※シリコン、フッ素樹脂塗料、無機塗料、光触媒などの下地は別途お問い合わせ下さい。  
※既存塗膜の劣化が著しい場合やセメント系下地の場合は、ダイヤガンシーラーマイルドまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。  
※「ダイヤアクリスフィラーダンセイ」には防水形複層塗材仕様がございます。別途お問い合わせ下さい。

## 可使用時間

気温	可使用時間	塗装間隔時間 (工程内)
5~15℃	10時間以内	4時間~7日
15~25℃	8時間以内	2時間~7日
25~35℃	6時間以内	2時間~7日

## 適用下地

- コンクリート面
- モルタル面
- ALC面
- 窯業系サイディングボード面及び各種塗膜面

〔シリコン・フッ素樹脂塗料、無機塗料、光触媒などの下地は別途お問い合わせ下さい。〕

## 施工・保管上の注意点

- 【塗装面の調整（新設）】
- ①素地に付着している塵、汚れ、油類、レタンス等を完全に除去して下さい。
  - ②セメント質下地は、表面の含水率10%以下（pH10以下）になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要です。
  - ③雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
  - ④PCパネル、現場打ちコンクリートの場合
    - 1)豆板、木コ、破損箇所、不陸などは、セメントフィラー、セメンシヤス#2000、セメンシヤス#2500、リマール#70等の下地調整材を使用し、補修して平滑にして下さい。
    - 2)表面が緻密でレタンス層がある場合は、レタンスを除去し、ダイヤガンシーラー又は、ダイヤシーラーエボをご使用下さい。
  - ⑤ALCパネルの場合はダイヤカチオンフィラーを塗布して下さい。
- 【塗装面の調整（改修）】
- ①屋上防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
  - ②使用シーリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、ブリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。
  - ③各現場の改修工事仕様に基づき劣化部分の補修や既存塗膜の処理（ケレン、清掃、高圧水洗浄）などを行って下さい。
  - ④脆弱層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。
  - ⑤チョーキングは、サンダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧洗浄で除去して下さい。
- 【材料の保管・管理】
- ①開缶した材料は必ず密封し、直射日光や雨を避けて保管して下さい。
  - ②材料の保管は凍結や温度上昇による劣質を避けるため、気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。
  - ③B液は揮発性のため、使用後は必ず密栓し、水分が混入しないように保管して下さい。
  - ④B液は危険物ですので、火気や換気には十分注意し保管して下さい。
- 【施工】
- ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風および湿度85%以上の場合、または予想される場合は施工を避けて下さい。また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は雨（雪）養生をして下さい。
  - ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
  - ③材料は付着乾燥しますと取れませんが、完全に養生して下さい。塗付面周辺の養生を完全に行ない、施工時建物の周辺に飛散しないように注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと斑が残りバリとなります。
  - ④乾燥時間は、温度、湿度、および、風等により差を生じます。
  - ⑤コンプレッサーを使用する場合は必ず十分な能力以上のものをご使用下さい。
  - ⑥下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
  - ⑦施工にあたっては、同一方法で、入り隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げて下さい。同一壁面途中での塗り継ぎは色違いやムラの原因となります。
  - ⑧施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
  - ⑨本施工に入る前に試験塗りを行い、施工のタイミング、粘着、塗布量などをチェックし、仕上がりムラにならないよう確認して下さい。
  - ⑩希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄め過ぎるときれいに仕上らないことがあります。特に濃色や下地の吸い込みがない場合は少なめに希釈して下さい。
  - ⑪常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
  - ⑫安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
  - ⑬一度に大量など色分けや発泡が原因となることがあるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
  - ⑭塗装下の差によって、塗布量が変化する場合があります。
  - ⑮フッ素や無機系などの難接着塗料処理がされている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、ご使用の場合は最寄の営業所へご相談下さい。
  - ⑯可使用時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。
  - ⑰使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置しますと硬化して洗浄することが難しくなります。
  - ⑱濃色や原色に近い色の場合、強くすると色が取れる場合があります。
  - ⑲下地の吸い込みにより色彩のムラが発生する場合があります。
  - ⑳シーラーと上塗りを混合するとゲル化する恐れがありますので、容器・刷毛・ローラーなどの共用は避けて下さい。
  - ㉑上塗材を施工する場合は、下塗り後の乾燥状態を確認して下さい。
  - ㉒既存塗膜の劣化が著しい場合は、また既存塗膜がセメント系の場合には高圧水洗後にダイヤガンシーラーまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。
  - ㉓B液は水気の大滴とじみにくい場合、必ず電動攪拌機等により混合して下さい。手動で軽く攪拌しただけでは硬化不良となり、艶が発現しない場合がありますので注意して下さい。
  - ㉔小出し調整する場合は、混合比のずれが生じないように、必ず台秤・上皿電子天秤等を用い、重量比の配合割合を厳守して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
  - ㉕施工後、塗膜が乾燥するまでに、降雨などにより水分の影響を受ける状態が継続された場合、低汚染機能が発現しないことがあります。乾燥までに降雨や積雪、結露が予想される場合は施工を避けて下さい。
  - ㉖予想外の降雨などが発生した場合は、シート養生などを行い塗膜面が濡れないよう対策を講じて下さい。
  - ㉗施工部位により、低汚染性が十分に発揮されないケースがあります。雨掛りでない部位や斜壁、水切りが不十分な面や窓まわり及びその下側面などは、低汚染機能が発現しないことがあります。
  - ㉘シーリング材などに含まれる可塑剤、煤煙や油類、サビ汁などが原因の汚染物質に対しては、低汚染機能が十分に発揮されません。
  - ㉙上塗は塗布量を厳守し均一に施工して下さい。塗布量が少ない場合は低汚染機能が十分に発揮されません。
  - ㉚塗布面の吸い込みが大きい場合は、下塗などに吸い込みを少なくし、上塗が塗布面に吸い込まれないようにして下さい。表面に上塗材が十分に確保されていないと耐熱性、低汚染機能が発揮されません。
  - ㉛A液とB液は指定の割合で調合し、電動攪拌機を用い十分に混合（2分以上）して下さい。
  - ㉜A液とB液の混合比率が不適切であったり、B液を調合していなかった場合は、低汚染機能が発現しません。
  - ㉝タテアプスを使用する場合も、上塗のA液、B液の缶を良く振り、沈降分離していないものを指定の割合で計量調合し、電動攪拌機を用い同様に混合し使用して下さい。
  - ㉞A液とB液の混合後は可使用時間以内に使用して下さい。可使用時間を超えて使用した場合、作業性や仕上り、汚染機能が発現しない場合があります。
- 【安全衛生上の注意】
- ①取扱いは、できるだけ皮膚に接触しないようにし、必要に応じて防護マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
  - ②取扱い後は、手洗い及び顔を十分にすすいで下さい。
  - ③子供の手の届かない所に保管して下さい。
  - ④作業中・作業後は十分換気を行って下さい。
  - ⑤廃液、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
  - ⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
  - ⑦皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診断を受けて下さい。
  - ⑧臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
- 【その他】
- ①その他、詳しくは最寄の各営業所へお問い合わせ下さい。
  - ②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意事項については仕様書等をご確認ください。
  - ③施工に際し、安全衛生上の詳細な注意事項については安全データシート（SDS）をご確認ください。